



発刊のことば

延岡市長

首藤正治



延岡市は、昭和八年に市として誕生以来四度の合併を重ね、今では九州第二位の市域を持つに至り、平成二十五年二月十一日で、市制施行八十周年を迎えました。

この記念すべき時に「延岡市史 市制八十周年記念十年史」が編さん・発行され、市民の皆様をはじめ多くの方々にご覧いただけますことは、喜ばしい限りです。

前回市史が発行されてからのこの一〇年の間に、少子高齢化が一層進み、国際化や高度情報化等により、世界規模で人・物・情報が活発に行き交うグローバルな時代になりました。さらに、自己決定と自己責任を基本とする地方分権の進展等により、今後の地方自治体のあり方も改めて問われてきています。

本書を通して、この一〇年間の延岡市の変遷を振り返っていただくとともに、将来への発展の筋道を立てる一助としていただければ幸いです。

顧みますと、延岡の町は、初代延岡藩主高橋元種公の南町・中町・北町の町割によって、その基礎が造られました。その後、江戸時代は城下町として栄え、大正から昭和のはじめに

かけては、日豊本線の開通や日本窒素肥料株式会社（現旭化成株）延岡工場の建設を機に、化学工業都市として発展し、近年は、東九州屈指の工業都市および東九州の拠点都市として大きな発展を遂げてきました。平成の合併の後は第五次長期総合計画の都市像として「市民力・地域力・都市力が躍動するまち のべおか」を掲げ、この計画のリーディングプロジェクトである「新生のべおかプロジェクト」を基本に、官民一体となって賑わいのあるまちづくりを進めています。

さらには、国の進める国土形成計画による九州圏広域地方計画における基幹都市圏「延岡・日向都市圏」の中心的都市としての役割を果たすとともに、定住自立圏構想における中心市として、県北八市町村の生活機能の維持や向上のための推進役となるなど、東九州の中心都市を目指し、魅力ある都市づくりに取り組んでいるところです。

本書は、平成二十四年一月から編さん作業に取りかかり、約一年半をかけて、平成十五年以降の一〇年間の歩みをまとめたものです。また閲覧者の利便性を考慮し、併せて電子版も作成しましたので、それぞれの目的に応じて広く活用されることを願っております。

最後に、調査・資料収集・執筆等にご尽力いただいた市史編さん委員の方々、並びに貴重な資料の提供やご指導を賜りました関係各位に厚くお礼を申し上げます、発刊のことばいたします。

平成二十五年五月一日